

6項 映像酔い事例及び同一映像提示実験による影響 要因分析： 安心・安全なユビキタス映像環境の実 現に向けて(4節 通研講演会, 第5章 国際会議・シン ポジウム等)

著者	氏家 弘裕
雑誌名	東北大学電気通信研究所研究活動報告
巻	12
ページ	284-284
発行年	2006-08
URL	http://hdl.handle.net/10097/30679

定理証明系 Isabelle/HOL とその応用

筑波大学 講師 南出 靖彦

日時：2005年9月30日（金） 13:30 - 16:30

場所：東北大学・電気通信研究所・2号館・2階 W214

Isabelle/HOL は高階論理に基づく定理証明システムで、プログラミング言語、暗号、プロトコルなどの様々な対象の形式化、検証に用いられている。本講演では、Isabelle/HOL の基礎となる論理と使い方について説明する。さらに、グラフの深さ優先探索の形式化、Isabelle/HOL を用いた C プログラムの検証などの応用例について紹介する。

映像酔い事例及び

同一映像提示実験による影響要因分析

—安心・安全なユビキタス映像環境の実現に向けて—

(独)産業技術総合研究所 人間福祉医工学研究部門

マルチモダリティ研究グループ 研究グループ長 氏家 弘裕

開催日：平成18年2月16日（木）15:00~16:30

開催場所：東北大学大学院工学研究科 電子情報システム・応物系 101 講義室

近年の情報通信技術の急速な進展は、人間を取り巻く映像環境を一変させた。すなわち、家庭や職場において人間は高輝度・高精細・大画面ディスプレイ、高性能のテレビゲーム機、映像表示携帯電話などの新しい映像機器に囲まれている。また、遠隔会議システム・VR 外科手術・テーマパークのアトラクションでは人工的立体視が用いられている。このような映像メディアに関連する機器の開発に加え、テレビゲーム・アニメ・インターネット上に流通するデジタルコンテンツなどの制作は、現在、わが国が最も得意とする産業分野になっている。

ところが、このような新しいユビキタスな映像環境には、たとえば、光過敏性発作・映像酔い・眼精疲労などのような好ましくない影響が含まれる場合がある。特に成長期の子供への影響を考えたとき、これらへの対策を怠ると、新しい映像機器の開発やデジタルコンテンツ産業の健全な発展を大きく妨げる可能性がある。

そこで本講演では、映像の生体影響として、特に映像酔いを中心に解説し、その対策および ISO における国際的なガイドラインづくりに関連する研究動向を紹介する。